

I 2017年度大学評価委員会の評価結果への対応

【2017年度大学評価結果総評】

連帯社会インスティテュートは、設立間もないにもかかわらず、明確な三つのポリシーをもち、3名の専任教員と学部横断的な協力により、特色ある三つのプログラムを有している。それぞれのプログラムで、理論と実践を組み合わせたカリキュラムを設定し、きめ細かい修士論文指導が行われていることは、高く評価できる。今後はインスティテュートとしての定着期に入ると考えられるので、グローバル化に伴うカリキュラムの一層の充実、内部質保証への対応や外国人学生への門戸の拡大などが検討されることを期待したい。

【2017年度大学評価委員会の評価結果への対応状況】（～400字程度まで）

グローバル化に伴うカリキュラムの充実をめざして「比較社会労働運動史」の新設を2017年度に申請し、認められた。内部質保証への対応として教育理念を新たに策定し、それに応じて3つのポリシー（ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー）を改定した。それに合わせてカリキュラム・マップ、カリキュラム・ポリシーを策定した。外国人学生への門戸は広く開かれている。設立時には中国人留学生を受け入れ、無事、送り出している。2018年度入試でも中国人留学生が応募し入学を認めたが、残念ながら入学手続きをしなかった。

【2017年度大学評価委員会の評価結果への対応状況の評価】

連帯社会インスティテュートは2015年度に開設され、少人数教育の利点を生かした、きめ細かい丁寧な個人指導を実施している。2017年度には、カリキュラムの充実化、教育理念の策定、3つのポリシーの改定、カリキュラム・マップ、カリキュラム・ポリシーの策定を行い、積極的な改革を行っている点が高く評価できる。外国人への門戸を開いているものの、2018年度は入学者がいなかった点は残念であり、継続的な取り組みが必要である。また、学生の確保についてはプログラム間のばらつきが大きく、抜本的な対策の検討が望まれる。

II 自己点検・評価

1 理念・目的

【2018年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

1.1 大学の理念・目的を適切に設定しているか。また、それを踏まえ、学部・研究科の目的を適切に設定しているか。

【理念・目的】

法政大学の「自由と進歩」という建学の精神を基礎とし、法政大学憲章の約束する「自由を生き抜く実践知」を身につけた、次に示すような人材を育成することを目標とする。

【人材の育成に関する目的及びその他の教育研究上の目的】（教育目標）

1. グローバル化や競争激化の中で分断されつつある個人や組織を繋ぐ「連帯社会」を構築することを自らの使命と考える。
2. 「連帯社会」を構成し、連帯による公益の実践を目指すNPO/NGOや社会的企業、種々の協同組合、労働組合の持続的発展を担うことができる。
3. それぞれの組織において「連帯社会」を構築するために必要となる政策を構想、立案、実現できる。

①研究科（専攻）等として目指すべき方向性等を明らかにした理念・目的が設定されていますか。

はい いいえ

②研究科（専攻）等の理念・目的は大学の理念・目的を踏まえて設定されていますか。

はい いいえ

③理念・目的の適切性の検証プロセスを具体的に説明してください。

（～400字程度まで）※検証を行う組織（教授会や各種委員会等）や検証の時期等、具体的な検証プロセスを記入。

教育理念・目的は2017年度に運営委員会で検討したうえで改定したもので、そのプロセスで真摯な議論を積み重ねている。また、修士論文の構想、内容を発表する「研究報告」を1年次、2年次にそれぞれ2回行っており、そこで私たちの設定した理念・目的を学生たちが理解しているかどうか、逆に、現在の理念・目的が適切かどうかを論議している。

1.2 大学の理念・目的及び学部・研究科等の目的を学則又はこれに準ずる規則等に適切に明示し、教職員及び学生に周知し、社会に対して公表しているか。

①研究科（専攻）等の理念・目的は学則又はこれに準ずる規則等に明示していますか。

はい いいえ

②どのように理念・目的を教職員及び学生に周知し、社会に対して公表していますか。

（～400字程度まで）※具体的な周知・公表方法を記入。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

教育理念・目的を記した資料（「教育目標と3つのポリシー」）を教員で共有しており、また学生に対しては新入生オリエンテーションの際に配布している。HPで閲覧することができる。

(2) 長所・特色

内容	点検・評価項目
・特になし	

(3) 問題点

内容	点検・評価項目
・特になし	

【この基準の大学評価】

連帯社会インスティテュートは創設の理念に基づく教育目標を設定しており、その適切性は運営委員会で議論、改正されている。さらに、修士論文の構想、内容を発表する「研究報告」にて、学生が人材育成目的を理解しているかを確認し、また現在の目的が適正かを学生と議論していることは優れた取り組みである。
教育目標は学則に明記され、その周知も、新入生オリエンテーションやHPで行われている。

2 内部質保証

【2018年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

2.1 内部質保証システム（質保証委員会等）を適切に機能させているか。

①質保証活動に関する各種委員会は適切に活動していますか。 はい いいえ

【2017年度における質保証活動に関する各種委員会の構成、活動概要等】※箇条書きで記入。

連帯社会インスティテュートの専任教員はわずかに3人であり、特別委員会をわざわざ設けなくても、授業の質をチェックすることはできている。インスティテュートが提供する科目（基本科目、必修科目、選択必修科目）の全てに関して授業アンケート（選択式と記述式）を行い、結果について専任教員全員で共有し、かつ兼任講師に関しては選択式結果の全てと、担当科目についての記述式結果をフィードバックしている。

(2) 長所・特色

内容	点検・評価項目
・特になし	

(3) 問題点

内容	点検・評価項目
・特になし	

【この基準の大学評価】

連帯社会インスティテュートには質保証に関する委員会は設置されていないが、授業アンケート結果を専任教員で共有しており、また、兼任講師に関しても記述式結果のフィードバックを行うなど、質保証に関する活動は適切に行われている。

3 教育課程・教育内容

【2018年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

3.1 授与する学位ごとに、学位授与方針を定め、公表しているか。

【学位授与方針】

修士課程に2年間以上在学し、36単位を修得し、以下に示す水準に達した学生に対して修士（学術）を授与する。
NPO/NGOや社会的企業、協同組合、労働組合などに求められる社会的役割を認識し、連帯社会構築のための具体的政策

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

を構想する研究能力を獲得し、さらに、修了後に実践の場において高度の専門性を発揮しうる能力を獲得したことを証明しえた学生に対して修士（学術）を授与する。

①研究科（専攻）等として修得すべき学習成果、その達成のための諸要件（修了要件）を明示した学位授与方針を設定していますか。

はい いいえ

3.2 授与する学位ごとに、教育課程の編成・実施方針を定め、公表しているか。

【教育課程の編成・実施方針】

本インスティテュートの教育理念は、各プログラムにおいて連帯社会の構築に求められる専門領域の学習を基軸に据えて、研究を推進し、高度に専門的な知識を備えた実践的な人材を輩出することである。こうした理念を実現するため、以下の方針に沿ったカリキュラムを編成している。

①学生全員に対しNPO/NGOや社会的企業、協同組合、労働組合に関する幅広い知識を獲得させるため、それぞれの概論を専門基礎科目として配置する。

また「連帯社会とサードセクター」というオムニバス授業を配置し、それぞれの分野で活躍する専門家から「連帯社会」の実践について学習する機会を設ける。

②NPO、協同組合、労働組合のプログラムごとに、より深い知識を獲得させるため選択必修科目を設ける。

③各プログラムに関連した選択科目を配置し、学生の志向に応じた履修モデルを提示する。

④修士論文の構想、執筆を支援するためプログラム横断的に「研究報告」を年に2回行い、教員全体で集团的に指導する。

①学生に期待する学習成果の達成を可能とするための教育課程の編成・実施方針を設定していますか。

はい いいえ

②教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針を周知・公表していますか。

はい いいえ

【根拠資料】 ※冊子名称やホームページURL等。

・「教育目標と3つのポリシー」

http://www.hosei.ac.jp/gs/kenkyuka/rentai/rentaishakai/rentai_policy.html

③教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針の適切性と関連性の検証プロセスを具体的に説明してください。

S A B

(~400字程度まで) ※検証を行う組織（教授会や各種委員会等）や検証の時期等、検証プロセスを記入。

教育目標、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーを改定した際に、それぞれの適切性を検討し、それぞれの連関を考慮した上でカリキュラム・マップ、カリキュラム・ツリーを策定した。

【2017年度に改善された事項および新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。

教育目標、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーを改定した。

これらに基づき、カリキュラム・マップ、カリキュラム・ツリーを策定した。

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

・「教育目標と3つのポリシー」

「カリキュラム・マップとカリキュラム・ツリー」

3.3 教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。

①修士課程においてコースワーク、リサーチワークを適切に組み合わせ、教育を行っていますか。

S A B

(~400字程度まで) ※コースワーク、リサーチワークを組み合わせた教育課程の概要を記入。

労働組合プログラム、協同組合プログラム、NPOプログラムのそれぞれにおいて基本科目（全員履修）、必修科目（各プログラムごとに必修）、選択必修科目を用意しており、体系的に連帯社会について学べるカリキュラムを用意している。他方で、1年次、2年次に各2回、研究報告を開き、修士論文のテーマ設定、進捗状況、執筆状況などをチェックし、随時、論文指導を行える機会を設けている。

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

・シラバス

「修士論文提出までのスケジュール」

「修士論文の提出、審査体制、審査基準」

②博士後期課程において授業科目を単位化し、修了要件としていますか。

はい いいえ

【根拠資料】 ※「はい」を選択した場合に単位化及び修了要件として設定されていることが確認できる資料を記入。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

・ 博士後期課程の設置がないため該当なし	
③博士後期課程においてコースワーク、リサーチワークを適切に組み合わせ、教育を行っていますか。	S A B
(～400 字程度まで) ※コースワーク、リサーチワークを組み合わせた教育課程の概要を記入。	
・ 博士後期課程の設置がないため該当なし	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。	
・ 博士後期課程の設置がないため該当なし	
④専門分野の高度化に対応した教育内容を提供していますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
(～400 字程度まで) ※学生に提供されている専門分野の高度化に対応した教育に関し、どのような教育内容が提供されているか概要を記入。	
労働組合、協同組合、NPO の基本を学生全員が学び、それを踏まえて各プログラムにおいて労働組合、協同組合、NPO を理論的かつ多面的に学ぶことのできる科目を提供している。それに加えて理論と同時に実践も学べるような講師陣によるプログラム横断的な科目「連帯社会とサードセクター」を提供している。	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。	
・ シラバス	
⑤大学院教育のグローバル化推進のための取り組みをしていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
(～400 字程度まで) ※大学院教育のグローバル化推進のために行っている取り組みの概要を記入。	
連帯社会、サードセクターについての海外の著名な研究者が来日した際には、連帯社会研究協力センターの協力を得て特別講演を依頼し、学生全員に参加を求めている。ただし、2017 年度は残念ながらそうした機会を設けることはなかった。国内および海外の社会労働運動史を幅広い視野で学ぶ「比較社会労働運動史」の新設を 2017 年度に要請し、認められた。	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。	
・ 特になし	
3.4 学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。	
①学生の履修指導を適切に行っていますか。	<input checked="" type="checkbox"/> S A B
【履修指導の体制および方法】 ※簡条書きで記入。	
これまで新入生のオリエンテーションの際に、履修モデルを口頭で各プログラムの専任教員が指導していた。2017 年度にはカリキュラム・マップとカリキュラム・ツリーを策定したため、2018 年度からこれを活用して、学生の履修指導を行っていく計画である。	
【2017 年度に改善された事項および新規取り組み事項等】 ※自己評価で S を選択した場合に具体的な内容を記入。	
カリキュラム・マップとカリキュラム・ツリーの策定	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。	
・ 「カリキュラム・マップとカリキュラム・ツリー」	
②研究科（専攻）等として研究指導計画を書面で作成し、あらかじめ学生が知ることのできる状態にしていますか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
【研究指導計画の明示方法】 ※簡条書きで記入（ここでいう「研究指導計画」とは、個別教員の研究指導計画を指すのではなく、研究科としての研究指導を指す（学位取得までのロードマップの明示等））。	
・ 新入生のオリエンテーションの際に、「修士論文提出までのタイムスケジュール」「修士論文の提出、審査体制、審査基準」という 2 種類の資料を配布し、説明している	
【根拠資料】 ※研究指導計画が掲載された文書・冊子等の名称を記入。	
「修士論文提出までのタイムスケジュール」「修士論文の提出、審査体制、審査基準」	
③研究指導計画に基づく研究指導、学位論文指導を行っていますか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
(～400 字程度まで) ※組織的な研究指導、学位論文指導の概要を記入。	
1 年次におけるゼミ、2 年次における論文指導で研究指導、学位論文指導を行っている。その上、1 年次、2 年次にそれぞれ「研究報告」を年 2 回－春と秋－開催し、修士論文につながる研究テーマの発表、論文執筆の進捗状況を発表させている。1 年生、2 年生ともに、また春秋ともに、いずれも 3 時間以上にわたる発表である。	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。	
・ 特になし	
④シラバスが適切に作成されているかの検証を行っていますか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注 2 「S・A・B」は、前年度から「S: さらに改善した、A: 従来通り、B: 改善していない」を意味する。

<p>【検証体制および方法】 ※簡条書きで記入（取組例：執行部（〇〇委員会）による全シラバスチェック等）。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3人の専任教員がシラバスチェックを行っている。 ・選択式と記述式の設問を合わせた独自の授業評価アンケート調査を実施しており、シラバスに関する学生の意見も参考にしている。 	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「2017年度授業改善のためのアンケート」 	
⑤授業がシラバスに沿って行われているかの検証を行っていますか。	はい <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/>
<p>【検証体制および方法】 ※簡条書きで記入（取組例：後シラバスの作成、相互授業参観、アンケート等）。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上記の独自授業評価アンケート調査を実施しており、シラバスに関する学生の意見も表明されており、それを参考に検証している。 	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「2017年度授業改善のためのアンケート」 	
3.5 成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。	
①成績評価と単位認定の適切性を確認していますか。	S <input type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/>
<p>【確認体制および方法】 ※簡条書きで記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・成績評価と単位認定については、3人の専任教員によるシラバスチェックをより厳密に行うことでその適切性を判定することにした。 	
<p>【2017年度に改善された事項および新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <p>シラバスチェックの厳密化</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特になし。 	
②学位論文審査基準を明らかにし、あらかじめ学生が知ることのできる状態にしていますか。	はい <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/>
<p>【学位論文審査基準の明示方法】 ※簡条書きで記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新入生のガイダンスの際に「修士論文の提出、審査体制、審査基準」を配布し、説明している。 	
<p>【根拠資料】 ※学位論文審査基準にあたる文書の名称を記入。また、冊子等に掲載し公表している場合にはその名称を記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「修士論文の提出、審査体制、審査基準」 	
③学位授与状況（学位授与者数・学位授与率・学位取得までの年限等）を把握していますか。	はい <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/>
<p>【データの把握主体・把握方法・データの種類等】 ※簡条書きで記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・少人数で、審査は3人の専任教員が行うため、学位授与状況は容易に把握できる。 	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特になし。 	
④学位の水準を保つための取り組みを行っていますか。	S <input type="checkbox"/> A <input checked="" type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/>
<p>(~400字程度まで) ※取り組み概要を記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・連帯社会を担っていくのにふさわしい人材として育つよう2年間教育、指導を行った。 ・修士論文についても審査基準の一つとして「連帯社会にかかわる課題を適切に取り扱っていること」を掲げている。 ・各教員はこの基準を念頭に論文指導、論文審査を行った。 	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特になし。 	
⑤学位授与に係る責任体制及び手続を明らかにし、適切な学位の授与が行われていますか。	S <input type="checkbox"/> A <input checked="" type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/>
<p>【修士】 (~400字程度まで) ※責任体制および手続等概要を記入。</p> <p>連帯社会を担っていくのにふさわしい人材として育つよう基礎科目、必修科目、選択必修科目を配置している。各プログラムの基礎科目を全員に学ばせ、また実践家を中心とした多彩な講師陣によるオムニバス授業「連帯社会とサードセクター」を必修科目としている。各教員はこの教育方針に沿ってゼミ、論文指導を行っている。修士論文に関してもこの教育方針のもと1年次、2年次に2度にわたる研究報告を開催し3人の専任教員が共同で責任を持つ体制を整えている。</p>	
<p>【博士】 (~400字程度まで) ※責任体制および手続等概要を記入。ただし、博士については、学位規則のとおりに行われている場合には概要の記入は不要とし、「学位規則のとおり」と記入。</p> <p>博士後期課程の設置がないため該当なし</p>	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・特になし	
⑥学生の就職・進学状況を組織的に把握していますか。	はい <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/>
【データの把握主体・把握方法・データの種類の等】 ※箇条書きで記入。 ・労働組合プログラム、協同組合プログラムの学生は所属組織が判明しているので、特段把握する必要はない。NP0プログラムの学生は2017年度は3名全員が所属組織が判明していたため、特段把握する必要はなかった。	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・特になし	
3.6 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	
①分野の特性に応じた学習成果を測定するための指標の適切な設定または取り組みが行われていますか。	S A <input checked="" type="checkbox"/> B
(～400字程度まで) ※取り組みの概要を記入。 特にしていない。	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・特になし	
②具体的な学習成果を把握・評価するための方法を導入または取り組みが行われていますか。	S A <input checked="" type="checkbox"/> B
(～400字程度まで) ※取り組みの概要を記入(取り組み例:アセスメント・テスト、ルーブリックを活用した測定、学習成果の測定を目的とした学生調査、卒業生・就職先への意見聴取、習熟度達成テストや大学評価室卒業生アンケートの活用状況等)。 特にしていない。	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・特になし	
3.7 教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	
①学習成果を定期的に検証し、その結果をもとに教育課程及びその内容、方法の改善・向上に向けた取り組みを行っていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
(～400字程度まで) ※検証体制および方法、改善・向上に向けた取り組みの概要を記入。 基礎科目、必修科目、選択必修科目については選択式と記述式の設問を合わせた独自の授業評価アンケート調査を実施している。各科目の調査結果を運営委員会で提示し、それを一つの資料として運営委員会および各教員が検証を行っている。	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・「2017年度授業改善のためのアンケート」	
②学生による授業改善アンケート結果を組織的に利用していますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
(～400字程度まで) ※取り組みの概要を記入。 基礎科目、必修科目、選択必修科目について記述式と選択式の設問を合わせた独自の授業評価アンケート調査を実施している。各科目についての調査結果は運営委員会に提示し授業改善に向けての資料として有効活用している。また運営委員会メンバー以外の教員(非常勤講師も含む)に対しては、全体の調査結果(選択式の設問)と担当科目の記述式の調査結果をフィードバックしている	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・「2017年度授業改善のためのアンケート」	

(2) 長所・特色

内容	点検・評価項目
・特になし。	

(3) 問題点

内容	点検・評価項目
・特になし。	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

【この基準の大学評価】

①方針の設定に関すること (3.1～3.2)

連帯社会インスティテュートのディプロマ・ポリシーは明確に定められている。また、カリキュラム・ポリシーについては、学生全員が幅広い知識を得るための基礎科目を配置しており、プログラムごとに必修科目、選択必修科目を配置した二段構えの構成となっている。教育目標と3つのポリシーはHPで公開されている。ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーを改定した際、適切性を検討しながらカリキュラム・マップ、カリキュラム・ツリーの策定を行ったことは、評価できる。

②教育課程・教育内容に関すること (3.3)

連帯社会インスティテュートでは、全プログラム共通の基本科目と、各プログラムでの必修科目、選択必修科目が設定されており、体系的に連帯社会について学習できるコースワークが整えられ、年2回の研究報告を通じて適切に論文指導が行われている。専門分野の高度化への対応として、労働組合、協同組合、NPOを広く学べる科目を用意しており、理論と実践を学べる科目も設置されている。国内外の社会労働運動史に関する科目を設置したことは評価できる。しかし、海外の研究者とのコラボレーションは2017年度においては実績がなく、講演会・研究会等の開催に向け努力が望まれる。

③教育方法に関すること (3.4)

連帯社会インスティテュートの履修指導については、新入生オリエンテーションの際に各プログラムの履修モデルを指導するとともに、「修士論文提出までのタイムスケジュール」、「修士論文の提出、審査体制、審査基準」を周知している。学生へは、年2回の研究報告を通して研究の進捗に関して十分な指導が行われている。シラバスに関しても教員間でチェックを行い、学生によるアンケートを参考にその検証が行われている。

④学習成果・教育改善に関すること (3.5～3.7)

連帯社会インスティテュートにおける成績評価と単位認定の適切性は、3人の専任教員による厳密なシラバスチェックにより担保されている。学位論文の審査基準に関しては、ガイダンスにより資料配布のうえ説明している。少人数教育であるため、学位授与状況はしっかり把握されており、学位の審査基準の一つとして「連帯社会にかかわる課題を適切に取り扱っていること」が掲げられ、学位の水準維持に役立っている。学位授与に関しても、科目の設置に工夫がみられ、適切に学位授与が行われている。

学生の就職・進学状況について、連帯社会インスティテュートの学生は全員が社会人であり、学生の所属組織が把握できている。

学習成果の測定に関しては、個別の教員によりタームペーパー（学期末レポート）等で学習成果が測定されている。

授業評価アンケート調査の結果を運営委員会で提示し、学習成果の検証を行っている点は評価できる。しかし、兼任講師へは調査結果をフィードバックしているものの意見交換の場がないので、専任教員・兼任講師で授業打合せなどの意見交換の会合の実施を検討いただきたい。

4 学生の受け入れ

【2018年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

4.1 学生の受け入れ方針を定め、公表しているか。

【学生の受け入れ方針】

本インスティテュートは連帯社会の構築に強い意欲を持ち、NPO/NGOや社会的企業、協同組合、労働組合のそれぞれについて幅広い関心を抱く社会人を受け入れる。

入学者を選考するために、秋と春に各1回、面接試験を行っている。面接試験では各プログラムにおける学習に必要な基礎知識を確認するとともに、事前に提出された研究計画書に基づいて文章の構成力、研究を進める上での企画力、構想力などを見極める。

①求める学生像や修得しておくべき知識等の内容・水準等を明らかにした学生の受け入れ方針を設定していますか。

はい いいえ

4.2 学生の受け入れ方針に基づき学生募集及び入学者選抜の制度や体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

①学生の受け入れ方針に基づき、学生募集および入学者選抜の制度や体制をどのように適切に整備していますか。また、入学者選抜をどのように公正に実施していますか。	S A B
<p>(～200 字程度まで) ※取り組み概要を記入。</p> <p>アドミッション・ポリシーを新たに設定し、連帯社会インスティテュートが求める社会人像を明示した。それを踏まえて、労働組合プログラム、協同組合プログラムについては日本労働文化財団が指定する団体に推薦を依頼している。団体推薦で受験する学生と社会人一般応募枠で受験する学生の中から研究計画書および論文（またはそれに代わる文章）の審査、面接試験結果を踏まえて、入学者を選抜している。</p> <p>【2017 年度に改善された事項および新規取り組み事項等】 ※自己評価で S を選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <p>アドミッション・ポリシーの策定</p> <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・「教育目標と 3 つのポリシー」</p>	
4.3 適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。	
①定員の超過・未充足に適切に対応していますか。	はい いいえ
<p>(～200 字程度まで) ※入学定員・収容定員の充足状況をどのように捉えているかを記入。</p> <p>労働組合プログラム、協同組合プログラムを選択する団体推薦の学生については定員を確保する努力をしており、定員をおおむね充足できている。ただ NPO プログラム、社会人一般入試については年によってバラツキが大きく、悩みの種である。科目等履修制度を活用して、本インスティテュートに関心を持ってもらうよう工夫をしているが、それ以外にもなんらかの対策を講じる必要があると考えている。</p> <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・特になし</p>	
4.4 学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	
①学生募集および入学者選抜の結果について定期的に検証を行い、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っていますか。	S A B
<p>(～400 字程度) ※検証体制および検証方法、改善・向上に向けた取り組みの概要を記入。</p> <p>運営委員会、進路相談会、面接試験時などでの議論を通じて検証を行い、その結果を次年度に活かすよう努めている。</p> <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・特になし。</p>	

(2) 長所・特色

内容	点検・評価項目
・特になし。	

(3) 問題点

内容	点検・評価項目
・特になし。	

【この基準の大学評価】

<p>連帯社会インスティテュートの入学者選抜に関しては、新たに規定されたアドミッションポリシーにより求められる社会人像を明示したうえで、面接試験により学習に必要となる種々の能力の見極めを行っている。NPO プログラムの定員が未充足となっているが、すでに入試説明会を兼ねたワークショップの後に NPO から派遣いただく講師によるシンポジウムの開催が 3 回予定されており、改善が期待される。</p> <p>学生募集および入学者選抜の結果については、運営委員会、進路相談会、面接試験時などでの議論を通じて検証を行い、その結果を次年度に活かすように努めている。</p>

5 教員・教員組織

【2018 年 5 月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。
 ※注 2 「S・A・B」は、前年度から「S: さらに改善した、A: 従来通り、B: 改善していない」を意味する。

5.1 大学の理念・目的に基づき、大学として求める教員像や各学部・研究科等の教員組織の編制に関する方針を明示しているか。

①組織的な教育を実施する上において必要な役割分担、責任の所在をどのように明示していますか。

【インスティテュート執行部の構成、インスティテュート内の基幹委員会の名称・役割、責任体制】※箇条書きで記入。

- ・連帯社会インスティテュート運営委員会：専任教員3人、専任教員4人で構成
運営委員長 中村圭介、副委員長 栗本昭、委員 柏木宏
運営委員長は運営委員会を開催し、審議を司る。副委員長は委員長を補佐する。

【明示方法】※箇条書きで記入。

- ・法政大学大学院連帯社会インスティテュート運営委員会規程

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・法政大学大学院連帯社会インスティテュート運営委員会規程

5.2 教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。

①研究科（専攻）等のカリキュラムにふさわしい教員組織を備えていますか。

はい いいえ

(～400字程度まで) ※カリキュラムとの整合性等の観点から教員組織の概要を記入。

労働組合プログラム、協同組合プログラム、NPOプログラムの基本科目、必修科目は専任教員が担当し、選択必修科目に関しては、専任教員に加え、当該科目にふさわしい本学教員、兼任講師を配置している。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・シラバス

2017年度教員数一覧 (2017年5月1日現在)

課程	研究指導 教員数	うち教授数
修士	3	3

5.3 教員の資質の向上を図るための方策を組織的かつ多面的に実施し、教員及び教員組織の改善につなげているか。

①研究科（専攻）等内のFD活動は適切に行われていますか。

S A B

【FD活動を行うための体制】※箇条書きで記入。

- ・運営委員会で以下のような取り組みを行っている。

【2017年度のFD活動の実績（開催日、場所、テーマ、内容（概要）、参加人数等）】※箇条書きで記入。

- ・基礎科目、必修科目、選択必修科目については選択式と記述式の設問を合わせた独自の授業評価アンケート調査を実施し、各科目ごとの調査結果を運営委員会に提示し、それを資料として授業改善のための議論を行っている。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・2017年度授業改善のためのアンケート

(2) 長所・特色

内容	点検・評価項目
・特になし。	

(3) 問題点

内容	点検・評価項目
・特になし。	

【この基準の大学評価】

連帯社会インスティテュートの教員の役割分担は、運営委員会規程により明確にされている。基本科目、必修科目は専任教員が担当しており、選択必修科目についても適切な教員が配置されている。FDに関しても、授業評価アンケートに基づき授業改善の議論を行っており評価できる。

6 学生支援

【2018年5月時点の点検・評価】

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

(1) 点検・評価項目における現状

6.1 学生支援に関する大学としての方針に基づき、学生支援の体制は整備されているか。また、学生支援は適切に行われているか。

①研究科（専攻）等として外国人留学生への修学支援について適切に対応していますか。 S A B

(～400 字程度まで) ※外国人留学生への修学支援に関する取り組みの概要を記入。
外国人留学生は現在はいない。

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。
・特になし。

②研究科（専攻）等として学生の生活相談に組織的に対応していますか。 S A B

(～400 字程度まで) ※学生の生活相談に関する取り組みの概要を記入。
社会人学生なので生活相談のニーズが特にあるわけではない。

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。
・特になし。

(2) 長所・特色

内容	点検・評価項目
・特になし。	

(3) 問題点

内容	点検・評価項目
・特になし。	

【この基準の大学評価】

連帯社会インスティテュートには外国人留学生は在籍しておらず、そのため現在修学支援は行われていない。在学学生は全員が社会人であるため、生活相談のニーズはほとんどない。

7 教育研究等環境

【2018年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

7.1 教育研究を支援する環境や条件を適切に整備し、教育研究活動の促進を図っているか。

①ティーチング・アシスタント (TA)、リサーチ・アシスタント (RA)、技術スタッフなどの教育研究支援体制はどのようになっていますか。 S A B

(～400 字程度まで) ※教育研究支援体制の概要を記入。
日本労働文化財団・連帯社会研究交流センターから「連帯社会とサードセクター」、フィールドワークなどにおいて支援を受けている。

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。
・特になし

(2) 長所・特色

内容	点検・評価項目
連帯社会研究交流センターの支援は教育面において助かっている。	

(3) 問題点

内容	点検・評価項目
・特になし。	

【この基準の大学評価】

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。
※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

連帯社会インスティテュートでは、TA・RAの採用はしていないが、日本労働文化財団・連携社会研究交流センターからオムニバス形式の授業やフィールドワークなどにおいて支援を受けている。

8 社会連携・社会貢献

【2018年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

8.1 社会連携・社会貢献に関する方針に基づき、社会連携・社会貢献に関する取り組みを実施しているか。また教育研究成果等を適切に社会に還元しているか。

①学外組織との連携協力による教育研究の推進に関する取り組み及び社会貢献活動を行っているか。

S A B

(～400字程度まで) ※取り組み概要を記入。

オムニバス授業「連帯社会とサードセクター」では労働組合、協同組合、NPOの協力を得て実施している。フィールドワークでも特定のNPOの協力を得ている。これらの組織と社会連携を持つことを前提にカリキュラムが組まれている。他方、社会人を受け入れて大学院教育を行い、連帯社会を担う人材を社会に送り出すことが社会貢献につながる。

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

・特になし。

(2) 長所・特色

内容	点検・評価項目
本インスティテュートは社会連携を前提に、社会貢献をするために創設された社会人大学院である。	

(3) 問題点

内容	点検・評価項目
・特になし。	

【この基準の大学評価】

連帯社会インスティテュートでは、オムニバス授業を労働組合、協同組合、NPOの協力を受け実施している点は高く評価できる。修了生の多くは、派遣元の労働組合やNPOに復帰し、活躍している。

9 大学運営・財務

【2018年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

9.1 方針に基づき、学長をはじめとする所要の役職を置き、教授会等の組織を設け、これらの権限等を明示しているか。また、それに基づいた適切な運営を行っているか。

①所要の職を置き、また運営委員会等の組織を設け、これらの権限や責任を明確にした規程を整備し、規程に則った運営が行われていますか。

はい いいえ

(～200字程度まで) ※概要を記入。

運営委員会において授業計画、研究指導、学生の状況、直面する課題などについて真摯な議論を行い、それを踏まえて各教員は授業、研究指導等を進めている。

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

・法政大学大学院連帯社会インスティテュート運営委員会規程

(2) 長所・特色

内容	点検・評価項目
・特になし。	

(3) 問題点

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

内容	点検・評価項目
・特になし。	

【この基準の大学評価】

連携社会インスティテュート運営委員会規程を設けており、規程に沿った運営が行われている。運営委員会では種々の問題を議論し、授業改善に努めている。

III 2018 年度中期・年度目標

No	評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関する事】
1	中期目標	<p>○授業科目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3プログラム（NPO、労働組合、協同組合）制に基づく、基礎科目、専門科目、選択必修科目の区分を含む、カリキュラム体系、各科目の配置、シラバスの記載項目などについて自己点検を行い、必要に応じて見直しを行う。 ・科目等履修生に関して、履修生から意見や希望を聴取し、正規の院生として入学する割合を高めるとともに、入学後にメリットがでるように検討する。 <p>○修士論文</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会人大学院という性格を踏まえ、修士論文に加えて、リサーチペーパーを認めるかどうか、検討を行い、必要と判断されれば、導入する。 ・3プログラム（NPO、労働組合、協同組合）制に基づく各プログラム担当教員とプログラム構成院生によるゼミ（特論演習Ⅰ、Ⅱ、および論文指導Ⅰ、Ⅱ）、研究報告（M1、M2とも年2回）と個別指導の3種類の論文指導について、自己点検を行い、見直しを行う。
	年度目標	<p>○授業科目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎科目、専門科目、選択必修科目の自己点検のフォーマットを作成する。 ・科目等履修生に対する意見や希望を聴取するためのフォーマットを作成する。 <p>○修士論文</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リサーチペーパーに関して、他研究科、他大学院の現状と課題を調査、整理する。 ・ゼミ、研究報告、論文指導に関する自己点検の方式について検討し、結論をえる。
	達成指標	<p>○授業科目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎科目、専門科目、選択必修科目の自己点検のフォーマットが作成され、活用されていること。 ・科目等履修生に対する意見や希望を聴取するためのフォーマットが作成され、活用され、科目履修生の希望の実現につながっていること。 <p>○修士論文</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リサーチペーパーに関して、他研究科、他大学院の現状と課題を調査、整理され、導入の必要性が判断された場合、導入され、より多様な研究実績の創造につながっていること。 ・ゼミ、研究報告、論文指導に関する自己点検の方式について検討し、結論をえて、論文の質的向上につながる事。
No	評価基準	教育課程・学習成果【教育方法に関する事】
2	中期目標	<p>○授業科目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育方法については学習効果を上げるためのFDなどの取り組みについて検討していく。 ・非常勤の教員については、教育方法について把握できていないので、把握、検討していく必要があるかどうか、議論し、必要に応じた措置をとる。 <p>○修士論文</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究報告（M1、M2とも年2回）の実施回数や方法、論文研究指導の実施方法、論文の審査体制と評価方法などについて、自己点検を行うとともに、他大学院や他法政大学の他研究科の方法なども調査し、必要な見直しを行う。
	年度目標	<p>○授業科目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・FDの実施に関して、検討を行う。 ・非常勤の教員の教育方法について、把握することの必要性について、検討する。 <p>○修士論文</p>

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

		<ul style="list-style-type: none"> 研究報告の実施回数や方法、論文研究指導の実施方法、論文の審査体制と評価方法などについて、自己点検の必要性について検討し、必要と判断された場合は、その手法を検討する。
	達成指標	<ul style="list-style-type: none"> ○授業科目 <ul style="list-style-type: none"> FDの実施に関して、検討の結果、まとめられた内容を踏まえ、教育手法と成果が改善していること。 非常勤の教員の教育方法について、把握することの必要性について、まとめられた検討結果を踏まえ、教育手法と成果が改善していること。 ○修士論文 <ul style="list-style-type: none"> 研究報告の実施回数や方法、論文研究指導の実施方法、論文の審査体制と評価方法などについて、自己点検の必要性について検討し、必要と判断された場合は、その手法を検討され、まとめられた結果を踏まえ、研究指導体制が改善されていること。
No	評価基準	教育課程・学習成果【学習成果に関すること】
3	中期目標	<ul style="list-style-type: none"> ○授業科目 <ul style="list-style-type: none"> 個々の教員が担当している科目については、シラバスの「到達目標」を把握する基準を検討し、この基準に基づき、到達度を図る可能性について調べ、必要な場合は、導入する。 オムニバスの授業（連帯社会とサードセクター）についても、同様の措置を検討するとともに、シラバスの「成績評価の方法と基準」について、見直しを行い、必要な場合は修正を行う。 個々の教員の担当科目、オムニバス授業とともに、履修した院生が単位を取得した割合を把握し、割合を高める措置を検討、導入する。 ○修士論文 <ul style="list-style-type: none"> 研究報告について、出席と報告の確認だけではなく、報告内容のレベル基準や指標、その後に改善がなされた程度などについて判断する枠組みを検討し、必要な措置をとることにより、論文のレベルアップをはかる。 論文については、提出時の評価だけではなく、2年間の進歩についても判断するプロセス評価の手法を検討し、導入に務める。
	年度目標	<ul style="list-style-type: none"> ○授業科目 <ul style="list-style-type: none"> 個々の教員が担当している科目については、シラバスの「到達目標」を把握する基準を検討する。 オムニバスの授業（連帯社会とサードセクター）についても、同様の措置を検討する。 個々の教員の担当科目、オムニバス授業とともに、履修した院生が単位を取得した割合を把握する方式を検討する。 ○修士論文 <ul style="list-style-type: none"> 研究報告の報告内容のレベルの基準や指標、その後に改善がなされた程度などについて判断する枠組みを検討する。 論文については、提出時の評価だけではなく、2年間の進歩についても判断するプロセス評価の手法を検討する。
	達成指標	<ul style="list-style-type: none"> ○授業科目 <ul style="list-style-type: none"> 個々の教員が担当している科目については、シラバスの「到達目標」を把握する基準が検討され、その結果がまとめられていること。 オムニバスの授業（連帯社会とサードセクター）についても、同様の措置が検討され、その結果がまとめられていること。 個々の教員の担当科目、オムニバス授業とともに、履修した院生が単位を取得した割合を把握する方式が検討され、その結果がまとめられていること。 ○修士論文 <ul style="list-style-type: none"> 研究報告の報告内容のレベル、その後に改善がなされた程度などについて判断する枠組みが検討され、その結果がまとめられていること。 論文については、2年間の進歩についても判断するプロセス評価の手法が検討され、その結果がまとめられていること。
No	評価基準	学生の受け入れ

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

4	中期目標	<p>○入試広報</p> <ul style="list-style-type: none"> ・推薦入試については、院生を推薦した団体の修了後の満足度を把握し、改善を図る。 ・一般入試については、全学の説明会に加えて、インスティテュート独自の説明会などを実施する。また、ウェブサイトの充実や広報マテリアル（パンフなど）の作成と配布について、検討し、予算措置を含め、必要な手段を実施する。 <p>○その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入学者の質的水準の確保に向け、選抜における口頭試問の評価基準などについて検討し、改善策を探る。 ・留学生の受け入れ拡大に向けた対策を検討し、可能な措置を導入する。 ・社会人大学院では、OB/OGの推薦が学生募集に大きな影響を与える。このため、OB/OGと在校生、潜在的受験生のつながりを作るためのホームカミングデーなどの手段を検討、可能な措置を導入する。
	年度目標	<p>○入試広報</p> <ul style="list-style-type: none"> ・推薦入試については、院生を推薦した団体の修了後の満足度を把握する必要性を検討する。 ・一般入試については、全学の説明会に加えて、インスティテュート独自の説明会などを実施する。また、ウェブサイトの充実や広報マテリアル（パンフなど）の作成と配布について、検討する。 <p>○その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入学者の質的水準の確保に向け、選抜における口頭試問の評価基準を検討する。 ・留学生の受け入れ拡大に向けた対策を検討する。 ・OB/OGと在校生、潜在的受験生のつながりを作るためのホームカミングデーなどの手段を検討する。
	達成指標	<p>○入試広報</p> <ul style="list-style-type: none"> ・推薦入試については、院生を推薦した団体の修了後の満足度を把握する必要性が検討され、その結果まとめられた内容を実施することにより、推薦団体からの評価が高まること。 ・一般入試については、全学の説明会に加えて、インスティテュート独自の説明会などが実施されるとともに、ウェブサイトの充実や広報マテリアル（パンフなど）の作成と配布について、検討され、その結果に基づき、入試広報が進められ、応募者の量的質的な改善がみられること。 <p>○その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入学者の質的水準の確保に向け、選抜における口頭試問の評価基準をが検討され、その結果に基づき、入試の質的水準が把握されるようになること。 ・留学生の受け入れ拡大に向けた対策が検討され、その結果がまとめられて、留学生の継続的な入学が実現すること。 ・OB/OGと在校生、潜在的受験生のつながりを作るためのホームカミングデーなどの手段が検討され、その結果に基づき、受験生の多様化、量的質的向上が実現すること。
No	評価基準	教員・教員組織
5	中期目標	<p>○非常勤の教員の考えのインプット</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専任教員が3名と少ないため、授業において、非常勤の教員への依存度は小さくない。非常勤の教員は、インスティテュートの院生の養成目的を達成するために重要な位置を占めているという認識に立ち、非常勤の教員の考えをインプットする仕組み（意見交換会など）を検討し、必要な措置を導入する。
	年度目標	<p>○非常勤の教員の考えのインプット</p> <ul style="list-style-type: none"> ・非常勤の教員の考えをインプットする仕組み（意見交換会など）を検討する。
	達成指標	<p>○非常勤の教員の考えのインプット</p> <ul style="list-style-type: none"> ・非常勤の教員の考えをインプットする仕組み（意見交換会など）を検討し、その結果が導入されることで、非常勤の教員の教育意欲と受講生の学習成果が高まること。
No	評価基準	学生支援
6	中期目標	<p>○授業・論文指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業については、オフィスアワーの周知と活用促進策をはじめとした授業支援システムの改善策

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

		<p>を検討し、必要な措置を導入する。論文指導に関しては、主指導ひとりの体制だが、複数の教員による指導の可能性を検討し、必要と判断された場合、その方法について検討、実施する。</p> <p>○その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習支援に関連して、院生のニーズ把握を行い、ニーズが高いものについて、導入の可能性を検討し、可能な場合は、導入する。 ・院生間のコミュニケーションや連携の促進や共通のニーズの把握などのため、院生会の設立を学生とともに検討し、必要かつ可能であれば、設立する。また、院生会をはじめとした学生とともに、学生支援などに関する話し合いの場の設定を検討、必要な場合、設ける。
	年度目標	<p>○授業・論文指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業については、オフィスアワーの周知と活用促進策を検討する。論文指導に関しては、主指導ひとりの体制だが、複数の教員による指導の可能性を検討する。 <p>○その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習支援に関連して、院生のニーズ把握を行う。 ・院生間のコミュニケーションや連携の促進や共通のニーズの把握などのため、院生会の設立を学生とともに検討し、必要かつ可能であれば、設立する。学生支援などに関する話し合いの場の設定を学生と検討、必要な場合、設ける。
	達成指標	<p>○授業・論文指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業については、オフィスアワーの周知と活用促進策が導入されることで、受講生の学習意欲と成果が高まること。論文指導に関しては、主指導ひとりの体制だが、複数の教員による指導の可能性が検討され、その結果が反映された指導体制崖精されることにより、学生の指導への満足度の向上と論文内容の向上につながる。 <p>○その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習支援に関連して、院生のニーズ把握が行われ、その結果が導入されることで、学生の教育成果が向上すること。 ・院生会が設立されることにより、院生間のコミュニケーションや連携の促進や共通のニーズの把握が進展すること
No	評価基準	社会貢献・社会連携
7	中期目標	<p>○連帯社会の構築を担う実務家を育成することを通じて、社会に貢献し、社会と連携するという本インスティテュートの設立目的を持続的に果たす。</p> <p>○専任教員が連帯社会を構成する労働組合、協同組合、NPOの研究を進め、研究成果を積極的に外部に発信することによって社会に貢献し、社会と連携することを目指す。</p>
	年度目標	<p>○講義、ゼミ、論文指導をしっかりと行うことによって連帯社会構築を担うにふさわしい能力と知識を獲得した卒業生（10名全員）を社会に送り出す。</p> <p>○専任教員が行った連帯社会に関する1年間の研究成果（学会報告、講演、シンポジウムなども含む）の一覧表を作成し、外部に発信する。</p>
	達成指標	<p>○毎年10名程度の卒業生を確実に社会に送り出し、2021年度末には50名を超える連帯社会の担い手を創り出す。</p> <p>○4年間の研究成果を踏まえ、専任教員による連帯社会に関するシンポジウムを開催する。</p>
<p>【重点目標】</p> <p><評価基準></p> <p>学生の受け入れ</p> <p><重視する理由></p> <p>労働組合、協同組合、NPOという3つのプログラムで構成されている連帯社会インスティテュートは定数を10名程度と定めているが、10名から13名の学生を開設以来受け入れてきた。したがって、インスティテュート全体としてみれば、学生募集は順調といえる。しかし、プログラムごとにみると、推薦入学を中心とした労働組合と協同組合の入学者が大半で、NPOプログラムの入学者は、2017・18年度とも1名に止まった。この状態が継続すると、労働組合、協同組合、NPOの三者により連帯社会を築くというインスティテュートの目標が損なわれかねない。このような認識から、NPOプログラムの学生の受け入れを増やすことが喫緊の課題と判断し、重点的に取り組むことにした。</p> <p><具体的な施策></p>		

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

学生の受け入れを増やすには、応募者を増やすことが必要であり、そのためには広報の充実が求められる。しかし、単にインスティテュートの存在を示すだけでは不十分であり、競合する他大学院のNPO関連プログラムなどを調査し、インスティテュートの特徴を明確にする必要がある。そのための調査と結果を踏まえ、広報のチラシやウェブなどの作成に加え、一部の授業の公開、入試説明を兼ねたシンポジウムや研究会の開催などを行い、NPOプログラムのビジュアル性を高める。さらに、入学した学生の学習や研究の満足度と成果を高め、修了生の「ロコミ」的な広報を広げていくことで、応募と受け入れの増加につなげていく。

<年度目標>

2018年度の目標としては、左記の具体的な施策の実現に向けた準備期間として、競合する他大学院のNPO関連プログラムなどを調査するとともに、NPOプログラムのウェブの開設や入試説明をかねたシンポジウムなどをパイロット的に開催する。また、これらに必要な予算の確保を進める。

<到達目標>

- ・競合する他大学院のNPO関連プログラムなどを調査については、年度内に終え、運営委員会で報告し、インプットされた内容も含め、次年度以降の広報などに生かす。
- ・NPOプログラムのウェブを開設する。
- ・入試説明をかねたシンポジウムなどを複数回実施し、その成果や課題を検討し、運営委員会に報告、議論し、翌年度の改善につなげる。
- ・3名以上の応募者と複数の入学者を獲得する。
- ・ウェブやシンポジウムなどに必要な予算調達のめどをつける。

【2018年度中期・年度目標の大学評価】

連携社会インスティテュートでは、少人数教育の利点を生かしきめ細やかな教育が行われており、高く評価できる。授業の改善についても、自己点検フォーマットの作成や学生の意見聴取のフォーマットを作成し適切に行われている。しかし、学生募集に関してはプログラム間のばらつきが大きいと、様々な対策を引き続き実行されることを期待したい。留学生の採用は日本人学生にとっても刺激になると思われ、検討を進めていただきたい。また、兼任教員からのフィードバックは極めて有効であることが多く、さらなる授業改善に役立てることが期待できるため、専任教員と兼任教員が意見を交換できる場を是非設定いただきたい。

【大学評価総評】

連帯社会インスティテュートは、少人数教育の利点を活かしたきめ細かい丁寧な個人指導を実施しており、評価できる。特に、社会人学生を対象としていることから、本インスティテュートでの学びが直接社会への貢献へと結びついている。2017年度にはカリキュラムの充実化を実施し、教育目標を策定、3つのポリシーを改定、それらに沿ったカリキュラム・マップ、カリキュラム・ツリーの策定を行い、改革が進められている。

学生に対し年2回の研究報告を通して研究の進捗に関して十分な指導を行っていることは、優れた取り組みである。学生によるアンケート結果を常に授業改善に役立たせていることも評価できる。しかし、外国人入学生がいない点、プログラムによって入学者数のばらつきがある点が懸念され、安定的な入学者の確保に引き続き努力していただきたい。

卒業生が本インスティテュートでの学びをどのように実社会で生かしているかを調査し外部に知らせることも、学生募集に効果があるのではないかと考える。また、専任教員と兼任講師の繋がりが若干希薄に思われ、兼任講師からの意見をフィードバックするための場を設定いただきたい。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。